

さんけん新聞

発行
特別認定NPO法人
三段峡—太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

◇
<https://sanken-hiroshima.org/>

住民と行政 地域観光企画

女性・学生対象 モニターツアー実施へ

J・Coin基金(みずほフィナンシャルグループ)の助成による「アフターコロナの地域観光」を住民と行政が組み立てるワークショップと「地域ブランドデザイン」のための社会調査入門講座」が十月に開かれた。三段峡では地域の自然を再発見するツアーがあった。



来訪者の仮想像を話し合う入門講座参加者

十一月には出来上がった行程を基にモニターツアーを実施し、参加する五十代の女性と大学生のグループからアンケートを集約する。

「岡岷山と歩くin龍頭」が十月十五日、森林館―奥の滝間で開かれ、安芸太田町里山ガイドら十九人が参加した。

「岡岷山と歩くin龍頭」が十月十五日、森林館―奥の滝間で開かれ、安芸太田町里山ガイドら十九人が参加した。

「岡岷山と歩くin龍頭」が十月十五日、森林館―奥の滝間で開かれ、安芸太田町里山ガイドら十九人が参加した。

と三段峡が、太田川の上流でつながっている価値を確認できた」と話した。

入門講座では七人が、「仮説思考法」という課題達成のための考え方を学び、安芸太田への来訪者の仮想像を描いた。

キラキラツアー 三世代が楽しむ

地元の三人に地域の自然を再発見してもらう「三世代で歩こう!キラキラツアー」が十月二十五日、長淵付近で開

「RCCラブ・グリーン賞」受賞 調査研究など評価

広島市の自然を次世代へ継承するため、自然保護などに取り組む団体を表彰する中国放送の「RCCラブ・グリーン賞」にさんけんが、十一の推薦団体の中から選ばれた。環境調査・研究・保全活動、人材育成などが評価された。他の一団体はNPO法人「ほしはら山のがっこう」(三次市)。

秋の観光シーズン前にした十月十八日と二十九日の両日、餅ノ木―聖湖間の探勝路を延べ二十三人が参加して清掃した。最上流部の整備は行き届き難く、さんけんが重点的に取り組む区間で、植物愛好家や広島市内の飲食店スタッフが中学生らと協力して清掃した。

南峰と歩く

39 猪上らず(ししあがらず)

「猟夫がこの淵に猪を追いつまむ」

郭公岩の岩壁に沿って回り込むように進むと、岩に接した窪みに玉緒滝が懸かる。大正期に使われていた対岸の道からだ、かなりの高さに見えたようだ。現在、滝の全体は眺望できない。玉緒は女性の名前として以外、ほとんど聞か

「猪上らず」という言葉がある。三方崖逃げられず、緒は玉を貫く紐のことで、魂(たま)に通じるので、命を意味する場合もある。和歌では枕詞として「長し、短し、乱る、絶ゆ」などにか

「猪上らず」と記す。高くはないが、三方が岩壁に囲まれ、這い上がれない猪の必死の形相が思い浮かぶ。

紅葉の時期お薦め。夏は淵の下流の川床を覆う葎(ヨシ)の色も相まり、全てが濃い緑に埋まる。秋は

一口メモ

▼マスク姿
十月二十四日、黒淵―水梨口間の通行規制が解除され、観光シーズンに間に合った。台風による樹々の痛みが少なく、昼夜の寒暖差があつて、今年の色付きは一段といい。

自然志向の効果か、コロナ禍にあつても大勢の観光客が訪れている。例年との違いはマスク姿での散策。

夜の業界&カントリー派

今田憲士郎さん

この人



夜の繁華街・流川でカラオケバーを営む30代。幼少期は長く田舎で暮らし、趣味は農作業と釣りというカントリー派。さんけん理事の一人に誘われ、数年前から三段峡へ足を運ぶうちに魅せられ、会員登録した。探勝路の清掃やホテルの浴場のメンテナンスなど、臨時の目立たない活動に仲間達と取り組む、影の実働部隊のリーダーである。自然への畏怖を感じるのが三段峡の魅力と話し、夜の業界こそ自然と関わるべきと思う。今年6月、長男七煌(ななき)君が誕生。大自然の中へ連れて来られる日を楽しみにしている。(俊)